

実用数学検定 1 級 第 149 回 1 次検定

平成 22 年 5 月 9 日

はじめに

拙稿は私が個人的に趣味で作成した数検の解答案にすぎません。完璧なはずがありません。拙稿で勉強しようなどと横着なことはせず、然るべく教科書で本物の数学を学び、各自数検に挑むようにして下さい。利用の仕方は自由ですが、全て閲覧者の自己責任でお願い致します。

問題 1. ★★

316 を 2 つの正の整数 x, y の和で表します. ただし, x は 13 の倍数, y は 11 の倍数です. このような 2 数 x, y の組をすべて求めなさい.

《解答》

$x = 13m, y = 11n$ (m, n : 正の整数) とおく.

$$13m + 11n = 316$$

$13m_1 + 11n_1 = 0, 13m_2 + 11n_2 = 1$ の解をそれぞれ見つける.

$$\begin{aligned}(m_1, n_1) &= (11, -13), (m_2, n_2) = (-5, 6) \text{ より,} \\ (m, n) &= k(11, -13) + 316(-5, 6) \quad (k \text{ は整数}) \\ (m, n) &= (15, 11), (4, 24)\end{aligned}$$

以上から, $(x, y) = (195, 121), (52, 264)$.

問題2. ★★★

正の整数 n に対して、 $1 \times 3 \times \cdots \times (2n-1) = (2n-1)!!$ と表すことにします。このとき、次の極限值を求めなさい。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\sqrt[n]{(2n-1)!!}}{n}$$

《解答》

$$A_n = \frac{\sqrt[n]{(2n-1)!!}}{n} \text{ とおく.}$$

$$\begin{aligned} A_n &= \sqrt[n]{\frac{(2n-1)!!}{n^n}} \\ &= \sqrt[n]{\frac{1}{n^n} \cdot \frac{(2n)!}{2 \cdot 4 \cdot \cdots \cdot 2n}} \\ &= \sqrt[n]{\frac{1}{n^n} \cdot \frac{1}{2^n} \cdot \frac{(2n)!}{n!}} \\ &= \sqrt[n]{\frac{1}{2^n} \cdot \left(1 + \frac{1}{n}\right) \left(1 + \frac{2}{n}\right) \cdots \left(1 + \frac{n}{n}\right)} \\ &= \frac{1}{2} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^{1/n} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^{1/n} \cdots \left(1 + \frac{1}{n}\right)^{1/n} \end{aligned}$$

ここで、両辺の対数をとる。

$$\begin{aligned} \log A_n &= \log 1/2 + \frac{1}{n} \log \left(1 + \frac{1}{n}\right) + \frac{1}{n} \log \left(1 + \frac{2}{n}\right) + \cdots + \frac{1}{n} \log \left(1 + \frac{n}{n}\right) \\ &= \log 1/2 + \sum_{k=1}^n \frac{1}{n} \log \left(1 + \frac{k}{n}\right) \end{aligned}$$

$n \rightarrow \infty$ とすると、区分解法より、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \log A_n &= \log 1/2 + \int_1^2 \log x dx \\ &= \log 1/2 + [x \log x]_1^2 - \int_1^2 dx \\ &= \log \left(\frac{1/2 \times 2^2}{e}\right) \end{aligned}$$

よって、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} A_n = \frac{2}{e}$$

以上。

問題 3. ★

$\sqrt{1 + \sin x}$ ($0 < x < \pi$) をマクローリン展開して、定数項から x^5 の項までを求め、和の形で表しなさい.

《解答》

微分して行くと法則性に気づく.

$$\begin{aligned} f(x) &= \sqrt{1 + \sin x} \\ f'(x) &= \frac{\cos x}{2\sqrt{1 + \sin x}} \\ f''(x) &= \frac{-2 \sin x \sqrt{1 + \sin x} - \cos^2 x}{4(1 + \sin x)} \\ &= -\frac{(1 + \sin x)^2}{4(1 + \sin x)^{3/2}} \\ &= -\frac{1}{4}f(x) \\ f'''(x) &= -\frac{1}{4}f'(x) \\ f^{(4)}(x) &= -\frac{1}{4}f''(x) = \frac{1}{16}f(x) \\ f^{(5)}(x) &= \frac{1}{16}f'(x) = \frac{\cos x}{32\sqrt{1 + \sin x}} \end{aligned}$$

よって、マクローリン展開は、

$$f(x) = 1 + \frac{1}{2}x - \frac{1}{8}x^2 - \frac{1}{48}x^3 + \frac{1}{384}x^4 + \frac{1}{3840}x^5$$

となる.

問題 4. ★★★

次の微分方程式の一般解を求めなさい.

$$(2x - y + 3) - (x - 2y + 3)y' = 0$$

《解答》

$$(2x - y + 3)dx - (x - 2y + 3)dy = 0$$

と変形できる. この式を以下のように置く.

$$Pdx + Qdy = 0$$

即ち, $P = 2x - y + 3, Q = -x + 2y - 3$ と置いた. すると,

$$\frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial Q}{\partial x} = -1$$

とことから, この微分方程式は完全微分形であると分かる.

$$\begin{aligned} F(x, y) &= \int_0^x P(s, 0)ds + \int_0^y Q(x, t)dt \\ &= \int_0^x (2s + 3)ds + \int_0^y (-x + 2t - 3)dt \\ &= [s^2 + 3s]_0^x + [-xt + t^2 - 3t]_0^y \\ &= x^2 - xy + y^2 + 3x - 3y = C \end{aligned}$$

以上.

問題5. ★★

下の4次正方行列について、次の間に答えなさい。

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

- 固有多項式を求めなさい.
- 固有値を求めなさい.

《解答》

与えられた正方行列を A とする.

$$\begin{aligned} \det(\lambda E - A) &= \det \begin{pmatrix} \lambda & 1 & 0 & 0 \\ 1 & \lambda & 1 & 0 \\ 0 & 1 & \lambda & 1 \\ 0 & 0 & 1 & \lambda \end{pmatrix} \\ &= \lambda \det \begin{pmatrix} \lambda & 1 & 0 \\ 1 & \lambda & 1 \\ 0 & 1 & \lambda \end{pmatrix} - \det \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 1 & \lambda & 1 \\ 0 & 1 & \lambda \end{pmatrix} \\ &= \lambda \{ \lambda(\lambda^2 - 1) + (-\lambda) \} - (\lambda^2 - 1) \\ &= \lambda^4 - 3\lambda^2 - \lambda + 1 \\ &= (\lambda^2 - \lambda - 1)(\lambda^2 + \lambda - 1) \end{aligned}$$

これを解いて、固有値 $\lambda = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}, \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{2}$.

問題 6. ★★★

数直線上の 0 と 1 の間で任意に 2 つの値 x, y を選ぶとき, それらが

$$|x - y| \geq 0.3$$

を満たす確率を求めなさい.

《解答》

まず x を定めた上で, y の範囲を考える.

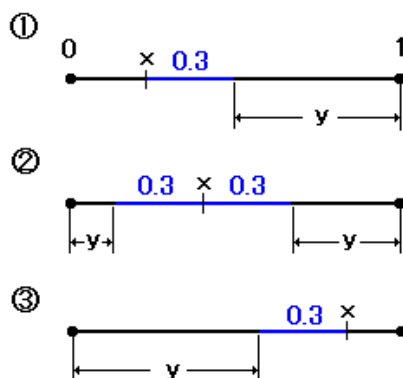


図 1: y の存在範囲

- (1) x が十分に小さいとき, y は x の右側にのみ存在できる.
- (2) x が数直線の真ん中辺りの時, y は x の両側に存在できる.
- (3) x が十分に大きいとき, y は x の左側にのみ存在できる.

それぞれの確率を P_1, P_2, P_3 とする. 明らかに $P_1 = P_2$ であることに注意して,

(1) $0 \leq x \leq 0.3$ のとき

$$\begin{aligned} P_1 &= \int_0^{0.3} (1 - x - 0.3) dx \\ &= [0.7x - x^2/2]_0^{0.3} = 0.21 - \frac{0.09}{2} \end{aligned}$$

(2) $0.3 \leq x \leq 0.7$ のとき

$$\begin{aligned} P_2 &= \int_{0.3}^{0.7} (1 - 0.6) dx \\ &= [0.4x]_{0.3}^{0.7} = 0.16 \end{aligned}$$

よって, 求める確率 P は

$$P = 2P_1 + P_2 = 0.49$$

以上.

問題7. ★

$x \geq 0$ で定義された2つの連続関数 $f(x), g(x)$ の“たたみこみ積 (convolution)” は

$$(f * g)(x) = \int_0^x f(x-t)g(t)dt$$

で定義されます. ここで, $f(x) = x, (f * g)(x) = x^3$ であるとき, $g(x)$ を求めなさい.

《解答》

与えられた条件よりコンボリューション積分は,

$$\begin{aligned} x^3 &= \int_0^x (x-t)g(t)dt \\ &= x \int_0^x g(t)dt - \int_0^x tg(t)dt \end{aligned}$$

となる. 両辺を x で微分する.

$$\begin{aligned} 3x^2 &= \int_0^x g(t)dt + xg(x) - xg(x) \\ 3x^2 &= \int_0^x g(t)dt \\ 6x &= g(x) \end{aligned}$$

以上.